グランプリ北海道（CVG北海道）

最優秀賞

キャンパスベンチャーグランプリ北海道（CVG北海道）実行委員会（近藤龍夫委員長＝北海道経済連合会会長）と日刊工業新聞社は共催で、第7回CVG北海道を実施した。北海道経済連合会、北海道経済産業局、北海道、北海道商工会議所連合会、北海道科学技術総合振興センター、札幌市、北海道中小企業家同友会に後援をいただき、北海道電力、エア・ウォーター、北海道ガス、北洋銀行、マイクロソフトの協賛により運営した。

最優秀賞を受賞した旭川工業高等専門学校・佐々木このみさん、佐藤博紀さん、浜口萌愛さん、長嶋啓太さん、天使大学・北崎安紗美さん、石崎恵子さん、小林由季さんの両グループは3月8日、東京都千代田区の霞が関ビル東海大学校友会館で開かれる「第8回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」に出場する。

以下に第7回CVG北海道の入賞プランおよび入賞者を紹介するとともに、近藤龍夫実行委員長のあいさつ、北野邦尋審査委員長の審査講評を掲載する。

（入賞者の写真は応募代表者、敬称略）

最優秀賞

旭川高専 佐々木さんら 天使大 北崎さんら

第7回CVG北海道実行委員

委員長
近藤　龍夫（北海道経済連合会会長）

委員
和田　修一（北海道経済産業局長）
髙橋　はるみ（北海道知事）
高向　巌（北海道商工会議所連合会会頭）
川田　憲秀（北海道商工会連合会会長）
常俊　優（北海道科学技術総合振興センター専務理事）
井水　治博（日刊工業新聞社社長）

最優秀賞

災害時において多用途使用可能な移乗介助補助具の提供

旭川工業高等専門学校 佐々木 このみ／佐藤 博紀 浜口 萌愛／長嶋 啓太

昨年取得の特許を活用

佐々木　このみさん

《プランの概要》

我々は2011年3月に発生した東日本大震災で、災害時には通常の移動に補助・介護を必要とする人々の避難を迅速に行うことが困難であり、避難所にスムーズに移動できないという問題があることを認識した。また避難所における生活の中で、物資や生活用水などの運搬、避難所内での介護・介助などに関して、さまざまな問題が生じていることを理解した。これらの問題は、将来発生する可能性がある大規模災害においても生じるであろうと思われる。

そこで、我々が11年7月に取得した特許権「移乗介助補助具（特許第4778099号）」を有効に利用して、災害時の迅速な避難介護・介助、物資の運搬に関する問題などを解決する介助補助具を製作・販売するプランを構築した。

我々が開発した移乗介助補助具は、平常時には介護者、被介護者の負担を軽減するのに加え、災害時には多用途使用が可能で、より威力を発揮する。介護者と被介護者が密着することにより介護者の重心移動がスムーズになって動きやすくなるため、災害時には避難行動を迅速化できる。

まず特許権の通常実施権を介護・介助用具メーカーに供与し、特許権の維持や起業に必要な資金を確保する。並行して医療機関や介護施設での実証試験を行い、改良が必要な点を探りながら起業の準備を進める。

最優秀賞

当別町亜麻食品開発プロジェクト

天使大学 北崎 安紗美 石崎 恵子／小林 由季

消費拡大、観光資源にも

北崎　安紗美さん

《プランの概要》

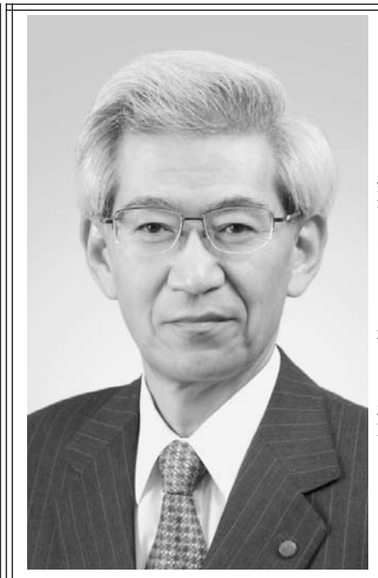
亜麻はかつて繊維を得るために北海道内で多く生産されていたが、戦後、化学繊維の登場に伴い姿を消した。しかし北海道当別町では最近、亜麻が持つ価値に着目して栽培を復活させた。亜麻の有効活用、きれいな花を咲かせる畑の景観を観光資源として生かすことなどにより生産、消費の拡大、地域活性化につなげたいと考えている。

亜麻には血小板凝縮抑制や生活習慣病予防などの効果があるn－3系多価不飽和脂肪酸が含まれ、その保健機能からサプリメントや化粧品などに用いられている。繊維材料や養鶏飼料などにも活用され用途は広いが、食品への加工はあまり進んでいないのが実情だ。

これを踏まえて栄養学を学び、「北の食物研究所」という部活動に参加する学生の視点で亜麻を用いた食品を開発し、その製造販売を軸とした事業展開を提案する。まず具体化しているのは「亜麻の実入りグリッシーニ」と「亜麻の実入りじゃが饅頭」。グリッシーニはイタリア発祥のスティック状のパン。数種の試作を行った結果、この二つは亜麻の香ばしさが引き立ち、適度に亜麻の存在が感じられた。

地元のイベントで販売した実績はあるが、当別から道内、全国へと広めていきたい。そのために各地で開かれる物産展への出展、亜麻畑近くでの店舗販売、ネット販売などを検討していく。

ごあいさつ



CVG北海道実行委員長　近藤　龍夫

旺盛なチャレンジ精神

中長期的な観点から北海道経済を活性化するためには、従来の公共事業依存型の産業構造から脱し、地域資源を活用した自立的内発型構造へ転換する必要があります。道内では転換に向けて、産学官が連携して北海道発のビジネス創造を目指す「産業クラスター創造活動」、大学などの知的財産とビジネスを結び付ける「北大リサーチ＆ビジネスパーク構想」などに取り組んでいます。

北海道が全国に先駆けて始めた産業クラスター創造活動は自分たちの強みを見極め、不足する力を互いに補い合いながらモノづくりを始めようとの意識改革から始まった挑戦ですが、本格的活動から10年を超え、新商品開発が進むなど成長曲線を描き始めています。さらに2年ほど前から食の高付加価値化や販路拡大など食分野に特化した「食クラスター活動」を本格的に始めました。昨年末には「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」が国の指定を受け、北海道における食産業の拠点形成事業が国家戦略として位置づけられたことから、官民が総力を結集して〝オール北海道〟でこの事業を完遂したいと考えています。

さて、キャンパスベンチャーグランプリ北海道は、道内の学生による独創的な技術や事業アイデアなどに基づくビジネスプランを公募し、優れたプランを顕彰することで次世代を担う人材を育成しようとするものです。7回目となる今回は新規3校を加えた16大学・専門学校から76件の応募があり、前回倍増して60件となった応募総数がさらに増加しました。これは本事業が実学を意識した研鑽（けんさん）の機会として広く浸透し、学生の皆さんの旺盛なチャレンジ精神の表れと評価しています。また前々回最優秀賞を受賞したプランが北海道勢として初めて全国大会で特別賞を受賞し、提案内容も充実してきたことを示しています。

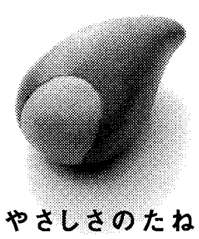
今回入賞したプランを見ますと食、ITなど多岐にわたっており、地域の活性化に示唆を与える内容が多数ありました。最優秀賞にはビジネス部門から「保健機能に着目した亜麻食品の開発に関するもの」と「災害時における移乗介助補助具の提供に関するもの」の2プランが選ばれ、まさに食産業の強化への取り組みをはじめ、全国を上回る速度で高齢化が進展する北海道にふさわしいプランであります。

入賞された方々には心からお祝いを申し上げます。今回応募された皆さんには、いま一度ビジネスプランをブラッシュアップし、起業へ向けてさらなる研鑽に取り組まれることを期待するとともに、今後の活躍を祈念しています。

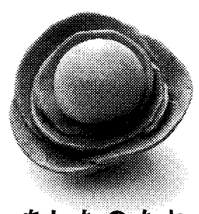
最後になりますが、今後とも引き続き本事業に関する各機関や企業の方々の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

CVG北海道

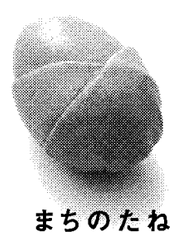
エコのたね
天然ガス
暮らしのために、あしたのために。



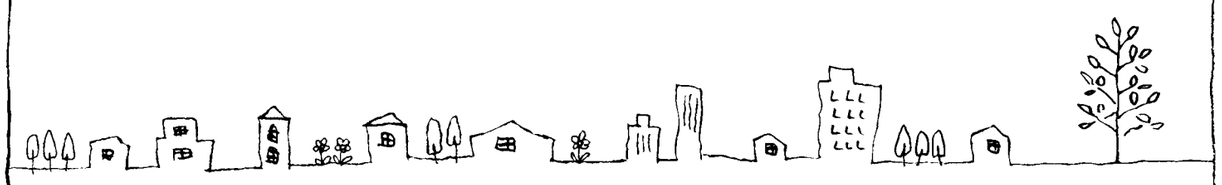
やさしさのたね
大気を汚す硫黄酸化物や地球温暖化の原因となるCO_2の発生量が少なく、人と環境にやさしいクリーンエネルギー・天然ガスの普及拡大に取り組んでいます。



あしたのたね
きれいな空を未来へ引き継ぐために、天然ガスから取り出した水素と酸素の化学反応で電気をつくる家庭用燃料電池の研究開発を進めています。

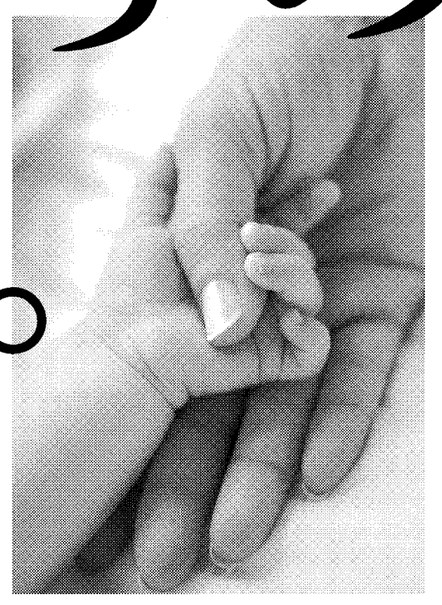


まちのたね
天然ガスから電気や熱をつくるガスコージェネレーションシステムは、CO_2削減と大幅な省エネを実現。商業施設などで採用され、エコな都市づくりに貢献します。



北のくらし、もっとできること
KITAGAS
エコのたね天然ガス　検索
http://eco.hokkaido-gas.co.jp

いのちのガス。



新生児の低酸素性呼吸不全を救うガス性の新しい医薬品として注目を集めている吸入用一酸化窒素製剤「アイノフロー®800ppm」。医療用ガスのNo.1サプライヤーだからこそ、多くの医師の皆さんから寄せられる信頼と期待。エア・ウォーターの吸入用一酸化窒素製剤が多くの子どもたちの命を救います。

もっと、医療のプロに。
医療チームの一員に。
エア・ウォーター
http://www.awi.co.jp/